



# いちご営農情報（保温開始期後の管理について）

令和3(2021)年11月11日 JA 佐野・安足農業振興事務所

## 1 温度管理の目安

【とちおとめ】

	午 前	午 後	夜 間
11月	25℃前後	22～23℃	8～10℃
12月 ～ 2月	午前中は、地温確保のために28℃で換気を開始し、25℃以上を維持する。	23℃程度で管理して早めに換気を閉める。 最低夜温を確保するため、ハウス内温度が15℃程度を目安にカーテンを閉める。	8℃を確保する。
	連棟ハウスでは午前中の温度確保に特に努める。		
地 温	17℃以上(マルチ下10～15cm)		

【スカイベリー】

生育ステージ (時期の目安)	午 前	午 後	夜 間
開花期～収穫始期 (10月下旬～11月上旬)	25～26℃	23℃	8～10℃
厳寒期 (11月中旬～2月上旬)	27～28℃を維持する (併せて除湿を心がける)	23℃を維持	8～10℃
地温	17℃以上(マルチ下10～15cm)		

【とちあいか】

	午 前	午 後	夜 間
11月上旬 ～ 12月上旬	22～25℃	20～23℃	8℃
12月中旬 ～ 2月中旬	午前中は、地温確保のために28℃で換気を開始する。	最低夜温を確保するため、ハウス内温度が15℃程度を目安にカーテンを閉める。	8～10℃
	連棟ハウスでは午前中の温度確保に特に努める。		
地 温	17℃以上(マルチ下10～15cm)		

※温度計は直射光を避け、株の高さ（ベッドの上20cm）で測定する。

- ◆完全保温の開始（サイドのおろし）は、外気の最低気温が8℃以下になる頃を目安とする。その前に、暖房機の点検やウォーターカーテン等の準備をしておく。
- ◆内張カーテンは、ハウス内最低気温が8℃以下にならないように被覆する。

- ◆高温管理は果実品質の低下につながるので、昼夜とも温度の上がり過ぎに注意する（特に夜温）。
- ◆葉の展開速度（目安：11月下旬で10日/1枚（とちおとめ））や草丈（目安：収穫開始期で24～25cm（とちおとめ））を考慮し、温度管理を行う。

## 2 かん水管理

- ◆かん水は、晴天の早朝に行い、ハウス内が過湿にならないよう注意する。
- ◆急激な天候回復や草勢回復、過繁茂は、新葉やがくにチップバーンの発生を招くので、葉の展開状況をみながら少量多回数のかん水を行う。特に、各花房の出蕾期にく焼け果が発生しやすいので出蕾期前から少量多回数によるこまめなかん水を実施する（pFメーターを設置している場合には、表1を目安に適宜かん水する）。

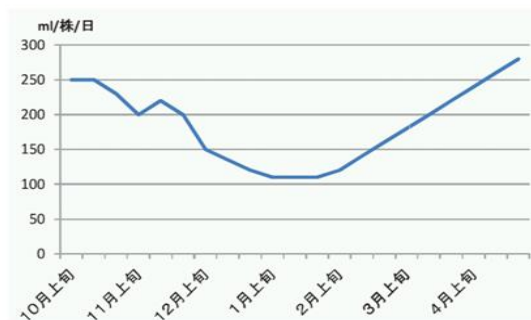


図1 時期ごとのかん水量のイメージ（とちおとめ）

表1 各品種のpF値目安

品種	pF値
とちおとめ	1.8
スカイベリー	1.8～2.1
とちあいか	1.8～2.1

## 3 病害虫防除

### (1) うどんこ病

- 気温の低下とともに活動が活発化するため、予防薬剤を中心としたローテーション防除を行う。
- 多肥による過繁茂に注意する（植物体の軟弱化）。
- 薬剤散布は、ミツバチ、天敵（ハダニ類、アザミウマ類）への影響日数を考慮する。



写真1 うどんこ病によるピンク色の花卉

### (2) アザミウマ類

- 3、4月の果実被害は、保温開始前にハウス内に飛び込んだアザミウマ類が越冬して加害するので、防除を徹底する。
- 多発時は脱皮阻害剤を散布後、5日後に即効性の薬剤を散布する。

